

# 令和4年度 事務事業評価シート（1）

## [ 令和3年度事務事業 ]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	骨髄移植普及促進事業			事業番号	011-261
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	保健所 保健医療 課

### I. 基本情報

事業の位置付け							
1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
			無	取組の方向性	—		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
	無		現状値	—	目標値	—	
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	ターゲット	—
			無	取組	—		
寄与するKPI		有・無	指標名	—			
	無	現状値	—	目標値	—		
2	関連計画						
3	事業開始年度			平成 29 年度	点検年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)		移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律				
事業の概要							
5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)		本庁、NPO				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)		堺市民（R3年4月1日 総人口数 823,731人）（特に18歳以上54歳以下の骨髄ドナー登録が可能な方をはじめとする市民）		対象数	単位	
					823,731	人	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)		広く市民に対し、骨髄移植への理解を深め、ドナー登録協力への意識を醸成するとともに、ドナーが骨髄を提供しやすい環境整備を行う。				
8	事業内容 (目的を達成するための手段)		骨髄移植は、白血病等の血液疾患に対する有効な治療法の一つであるが、骨髄移植には患者さんとドナーのHLA型（白血球の型）の適合が必要であり、適合率は、非血縁者（他人）間では数百～数万分の1の確率で、かつ、適合した場合であっても、ドナーの方々の様々な事情等により、実際に移植を受けることができる方は約6割に留まっている。こうした状況をふまえ、協定先であるNPO法人関西骨髄バンク推進協会をはじめ、大阪府や日赤、学生等との協働・連携を強化しながら下記事業に取り組む。 ① 骨髄移植の理解促進（普及啓発イベントの実施等） ② ドナー登録者増加のための取組み（献血併行型ドナー登録会の効果的実施） ③ ドナーが骨髄等を提供しやすい環境の整備（骨髄ドナー支援金事業の実施）				
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など		①国・府が未実施である骨髄ドナーに対する支援金事業（通院5千円/日、入院2万円/日（上限14万円））を実施 ②ドナー登録や普及啓発等を積極的に推進するため、NPO法人と協定を締結				
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）		骨髄ドナー				
10	公民連携・協働事業		NPO法人、大阪府、日赤、市民、学生等と協働し、普及啓発イベントやドナー登録会の実施				

### II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定							
11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検年度	
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和7年度	
	献血併行型ドナー登録会での新規登録者数	人	目標値	240	275	400	500
			実績値	271	399		
			達成率	113%	145%		
当該指標を選定した理由		ドナー登録者が増えるほど、骨髄移植を必要とする患者を多く救うことができ、また、骨髄移植に対する市民理解度を測ることができると思われるため					
目標値の設定根拠・算出方法		新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、令和3年度実績と同程度の目標値を設定					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	献血併行型ドナー登録会の開催回数	回	目標値	22	32	60	
			実績値	32	60		
			達成率	145%	188%		
当該指標を選定した理由		ドナー登録を効果的に増やすには、献血と併せて実施する登録会を増やすことが有効であり、また、登録会は普及啓発の場でもあるため					
目標値の設定根拠・算出方法		新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、令和3年度実績と同程度の目標値を設定					

## 令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	骨髓移植普及促進事業	事業番号	011-261
-------	------------	------	---------

### Ⅲ. 投入量

#### 事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	635	2,272	2,184	2,760	2,017	
13 財源内訳	国支出金				0	
	府支出金				0	
	市債				0	
	その他（寄附金、基金繰入金）		2,124	2,000	2,759	2,000
	受益者負担金(使用料、手数料等)					0
一般財源	635	148	184	1	17	
14 人件費 (b)	1,620	820	820	820	820	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	2,255	3,092	3,004	3,580	2,837	

#### 事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源	
								R3
16 事業費内訳	ドナー支援金	R3	決算	480	0	R3	決算	
		R4	予算	1,000	0	R4	予算	
	基金積立	R3	決算	2,279	0	R3	決算	
		R4	予算	1,000	0	R4	予算	
	通信運搬費	R3	決算	1	1	R3	決算	
		R4	予算	1	1	R4	予算	
旅費	R3	決算	0	0	R3	決算		
	R4	予算	6	6	R4	予算		
消耗品費	R3	決算	0	0	R3	決算		
	R4	予算	10	10	R4	予算		

### Ⅳ. 事業の効率性

#### 単位当たり経費

区分	単位	令和2年度	令和3年度
① 献血併行型ドナー登録会での新規登録者数	人	271	399
② 上記①にかかる年間経費	千円	3,004	3,581
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	11,085	8,975
備考 (算出についての説明等)			

### Ⅴ. 評価

#### 費用対効果に係る所見

18	<p>骨髓移植に係る普及啓発活動やドナー登録会については、NPO法人や日赤等との協働により実施するとともに、事業経費の大部分を占めるドナー支援金については、寄附金を原資としているため、費用対効果は高い。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ドナー登録会の開催が十分にできなかったが、同感染症の影響がなくなれば、費用対効果はさらに高くなると考えている。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	<p>コロナ禍により、普及啓発活動が様々な制約を受ける中、一定の新規ドナー登録者数を確保するとともに、ドナーが骨髓等を提供しやすい環境整備の一環として、クラウドファンディングを活用したドナー支援金事業を開始したことにより、市民の骨髓移植への理解促進とドナー登録協力への意識の醸成に寄与したものと考える。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------